

# 移動販売事業を問う



質問者  
中野 博 議員

街中の商店が、やむなく閉店をされる中、移動販売事業は、買い物弱者にとって大変に待ち焦がれたものであると思います。

しかし、全国的にも途中で挫折という例も少なくありません。

松田町にとって末永く効果的・効率的に持続するよ様に、事業推進のための施策をお聞かせください。

**A**

## 継続こそ町民サービス!

回答 (町長)



最も重要である事業の継続性については、推進協議会の中でも議論されてきた課題であるため、



好評の移動販売車「くるまつくん」

全国的にも唯一成功事例であろうと思われる方式を参考にしたい。一般的な移動販売は、個人事業主が一人で運営しているが、予期せぬ事態が発生した場合にも対処できるように、法人が事業を実施することで、利用者に不便が掛

## 有害獣の管理捕獲に対する新たな支援を!



質問者  
田代 実 議員

からないようにした。今後も事業継続のため、推進協議会では、地域からの要望や問題点を洗い出し、事業の改善を図り、より多くの方々が喜んでくれるよう、町としても適切な助言や指導をしていく。

松田山並びに寄の農地や山林における鹿・猪・狸・ハクビシンなどの有害獣による被害は甚大のため、その対策として第3回議会臨時会で補正予算に、有害獣被害実態等調査事業1200万円が計上されました。

松田町の有害獣対策について、町長の考えをお伺いします。

(1) 調査事業は、被害実

態調査とジビエ事業性調査が主なもので、最も重要な被害対策の詳細について示されておりません。今後、どのような方針で被害を防止していくのか。

(2) ワナを用いた鹿や猪捕獲の担い手は、猟友会とされていますが、農家との連携は。

(3) 松田町猟友会々員の平均年齢は、65歳を超え後継者不足になっており



農作物を荒らす鹿(写真は松田山)

**A**

## 今後も効果的な対策に取り組む

回答 (町長)



ます。管理捕獲に対する猟友会への新たな支援については。

(2) 猟友会と農家との連携は、町補助金を活用しワナ免許を取得していただき、自分の畑にワナを設置し、捕獲後に猟友会に止め刺しをしていただくことを考えている。

(3) 猟友会への新たな支援は、後継者の育成を図るために捕獲講習会と合わせ、女性を含む若手の新規ハンターの加入や町外在住のハンターを呼び寄せるなど、新たな人材の掘り起こしに取り組んでいく。また、猟友会に対して定額補助金を増やすのか、1頭捕獲したらいくらかとするかの支援策を検討していく。

(1) 被害の防止策は、農家が設置する金網柵や電気柵などの防護柵補助金を使いやすくした。また、銃器を主体とした駆除方法に加え、括弧ワナや箱ワナの捕獲を拡充する。